（９）研究課題評価

ア　実施状況

①　対象

県立試験研究機関が行う試験研究開発課題（調査、分析を含む。以下「研究課題」という。）のうち、次に掲げるものを対象とする。

ただし、研究を含まない技術移転、普及及び指導のみに係るものについては評価の対象としない（研究計画が技術移転、普及及び指導を含むものであるときは、当該技術移転、普及及び指導についても評価の対象とする。）。

（１）目的設定

新たに予算計上しようとする研究課題

（２）中間評価

令和元年度以前に着手し、令和２年度に予算計上している研究課題及び研究期間を延長しようとする研究課題

（３）事後評価

令和元年度に終了した研究課題

○実施件数

目的設定	１２ 件　　※令和２年度当初予算関係
中間評価	２１ 件
事後評価	１４ 件

②　実施時期

（１）目的設定　　令和元年１０月
（２）中間評価　　令和２年　６月
（３）事後評価　　令和２年　６月

③　評価に用いた観点及び判定基準

（１）目的設定

観点	考察項目
必要性	○政策的妥当性
有効性	○研究開発効果
技術的達成可能性	○技術的達成可能性
	○研究計画・研究体制の妥当性

（２）中間評価

観点	評価項目		判定基準
必要性	○ニーズの状況変化	A	ニーズの増大とともに研究目的の意義も高まっている
		B	ニーズに大きな変動はない
		C	ニーズの低下とともに研究目的の意義も低くなってきている
		D	ニーズがほとんどなく、研究目的の意義がほとんどなくなっている
有効性	○効果	A	大きな効果が期待される
		B	効果が期待される
		C	小さな効果が期待される
		D	効果がほとんど見込めない
目標達成可能性	○進捗状況	A	計画以上に進んでいる
		B	計画どおりに進んでいる
		C	計画より遅れている
		D	計画より大幅に遅れている
	○目標達成阻害要因の状況	A	目標達成を阻害する要因がほとんどない
		B	目標達成を阻害する要因が少しある
		C	目標達成を阻害する要因がある
		D	目標達成を阻害する要因が大いにある
総合評価	A	当初計画より大きな成果が期待できる	
	B+	当初計画より成果が期待できる	
	B	当初計画どおりの成果が期待できる	
	C	更なる努力が必要である	
	D	継続する意義は低い	

（3）事後評価

観点	評価項目	判定基準	
目標達成	○最終到達目標の達成度	A	十分達成できた
		B	ほぼ達成できた
		C	達成できなかった
有効性	○研究成果の効果	A	効果大
		B	効果中
		C	効果小
		D	効果測定困難
総合評価	S	当初見込みを上回る成果	
	A	当初見込みをやや上回る成果	
	B	当初見込みどおりの成果	
	C	当初見込みをやや下回る成果	
	D	当初見込みを下回る成果	

イ　研究課題評価結果の概要及び評価結果の反映状況

○評価結果の概要

中間評価及び事後評価の詳細は、次頁の一覧表及び各評価調書を参照。

○反映状況

■　中間評価

研究計画内容の見直しや研究課題に係る今後の対応方針及び予算要求に反映させるとともに、予算要求・予算編成の資料として活用。

■　事後評価

実施中又は将来の類似研究の課題設定等に反映させるとともに、研究機関の研究基本方針や研究計画の策定の検討資料として活用。

中間評価（継続研究課題）結果一覧

No	課　題　名	研究機関名	事業年度	評価				
				ニーズの状況変化	効果	進捗状況	目標達成阻害要因の状況	総合評価
1	米菓製造における加工技術の開発	総合食品研究センター	R1～R3	A	A	B	B	B＋
2	次世代型あめこうじの開発と秋田米を活用した発酵食品への応用	総合食品研究センター	R1～R3	A	A	B	A	B＋
3	蔵独自の住みつき酵母を利用した味噌などの発酵食品の開発	総合食品研究センター	R1～R3	A	B	B	B	B
4	県産原材料を活用した新規アルコール飲料の開発と高品質化	総合食品研究センター	R1～R3	A	A	B	B	B＋
5	“Enjoy!アクティブシニアライフ!!”をサポートする食の研究開発	総合食品研究センター	R1～R3	A	A	B	B	B＋
6	多収性品種を用いた業務・加工用米の省力安定多収生産技術の確立	農業試験場	H29～R3	B	B	B	B	B
7	秋田ブランドを確立する花き新品種育成	農業試験場	H30～R4	B	A	B	B	B
8	第5期次世代銘柄米品種の開発	農業試験場	R1～R5	A	A	B	B	B＋
9	野菜の競争力強化を目指した新栽培技術の開発	農業試験場	R1～R5	B	B	B	B	B
10	先端技術を活用した新たな園芸作物病害虫防除技術の確立	農業試験場	R1～R5	B	B	B	B	B
11	県外からの就農者増加策ならびに雇用型経営体育成像の解明	農業試験場	R1～R3	B	B	B	B	B
12	果樹産地再生の基盤となる新品種の育成と選抜	果樹試験場	H28～R7	B	A	B	B	B
13	県内産高品質果実の長期貯蔵による端境期出荷技術の開発	果樹試験場	R1～R3	B	B	B	A	B
14	牛肉におけるモモの脂肪交雑を改善する肥育技術の開発	畜産試験場	R1～R5	A	A	B	B	B＋
15	秋田ブランドを確立する浅海生産力利用技術の開発	水産振興センター	H29～R3	A	B	B	A	B＋
16	ハタハタの資源変動と漁場形成に関する研究	水産振興センター	R1～R5	B	B	B	B	B
17	湖沼河川における水産資源の安定化と形成に関する研究	水産振興センター	R1～R5	B	B	B	B	B
18	再造林における樹種選択と多機能型森林育成技術の開発	林業研究研修センター	H29～R3	A	B	B	A	B＋
19	ニホンジカの個体数を制御するための生息環境の解明	林業研究研修センター	H30～R4	A	A	A	A	A
20	菌床シイタケのスマート栽培技術の開発	林業研究研修センター	R1～R5	A	A	B	B	B＋
21	電界砥粒制御技術を用いた新たな切断技術の開発	産業技術センター	H30～R4	B	B	A	B	B

事後評価（令和元年度終了研究課題）結果一覧

No	課　題　名	研究機関名	事業年度	評価		
				目　標 達成度	効果	総合評価
1	県産農林水産素材の品質を活かすための新加工技術の開発・応用	総合食品研究センター	H29～R1	B	A	B
2	野菜のオリジナル品種を核とした秋田ブランドを確立する新品種育成	農業試験場	H27～R1	B	B	B
3	秋田ブランド化へ向けた花き栽培技術の開発	農業試験場	H27～R1	B	B	B
4	ニホンナシ「秋泉」の産地化を加速する早期成園化技術の検討	果樹試験場	H27～R1	B	A	B
5	飼料用米給与による早期若齢肥育技術の開発	畜産試験場	H27～R1	B	A	B
6	母牛初乳と人工初乳の供用給与による乳用子牛の育成技術の検討	畜産試験場	H29～R1	A	A	A
7	底魚資源の持続的利用と操業の効率化に関する技術開発	水産振興センター	H27～R1	A	A	S
8	種苗生産の低コスト化と効果を高める放流の技術開発	水産振興センター	H27～R1	B	B	B
9	内水面重要魚種の増殖効果を高める研究	水産振興センター	H27～R1	B	B	B
10	スギ人工林における地位級区分の高精度化に関する研究	林業研究研修センター	H27～R1	A	A	S
11	県内産業の高度化を図るロボティクス技術の研究開発	産業技術センター	H28～R1	B	B	B
12	再生可能エネルギーからの水素製造と高純度化に関する研究開発	産業技術センター	H28～R1	B	B	B
13	熱伝導性・耐摩耗性に優れた高機能焼結材料の開発	産業技術センター	H29～R1	B	B	B
14	セルロースナノファイバーを用いた複合材料の成形加工技術の研究開発	産業技術センター	H29～R1	B	B	B